

「第1問」

5月のてんとう虫

6メートルってどう思います？

「周囲からは無愛想で怖がられているけど、不器用なだけで本当は優しい人よ、あの人は。」

と常に6メートルより1歩後ろ下がってついて行く妻、5メートルはきっとそう答えます。

6メートルって長いか短いかを考える時どう思います？

6メートルの橋という短いような気がします。

6メートルの箸という長いような気がします。

と言うか長いです、長いってもんじゃないです、長いにもほどがあります。

あまりの長さに怒りすら覚えそうです。

つまり何をもって6メートルなのかで長くもなるし短くもなります。

私にとってのある6メートル、非常に長いです。

どれくらい長いかというと

6メートルを

6

メ-----

トル

と書きたくなるくらい、その6メートルは長いです。

私は、ビッグイシューという雑誌の販売員をしています。

ビッグイシューとは、赤い帽子を被ったホームレスのおじさんが駅前で販売している雑誌です。

つまり私は、ホームレスです。

私もまた、とある駅前で雑誌を販売しています。

正確には、とある駅と、とあるショッピングモールを南北に結ぶ横断歩道、横断歩道と垂直に結ばれた歩道（自転車で乗り上げると転びそうになる斜めの縁石）の出入り口、

ショッピングモール側のショッピングモールの背にして歩道の出入り口の左側、

つまり歩道の出入り口の東側に立って雑誌を販売しています。

だからあれっすねー駅前っつーかー自分的にはどっちかっつーとショッピング

モール前

つかやばいくらいショッピング前みたいーそんな感じっすねー。

すみません、仕事後のオフモードで、気が緩んで地が出てしまいました。

私の主な仕事内容は、雑誌を右手に持ち、雑誌を掲げて

「ビッグイシューでございます！」

と横断歩道を行き交う方々にひたすら連呼する、簡単なようで、本当に簡単なお仕事です。

しかし最近、自分なりに工夫して

「ビッグイシューでございます！」

と連呼しながら5万円を何に使うかを考えています。

焼き肉を食べることは決定しました、後は焼肉を食べながら考えます。

そんな欲望という名の歩道、月に2度、3度、夕暮れ時に彼が現れます。

私の対面、とある駅と、とあるショッピングモールを南北に結ぶ横断歩道、横断歩道と垂直に結ばれた歩道（自転車で乗り上げると転びそうになる斜めの縁石）の出入り口、

ショッピングモール側のショッピングモールの背にして歩道の出入り口の右側、

つまり歩道の出入り口の西側に彼が現れます。

「本日全品8%引きでございます！ー！ー！ー！ー！」

と連呼をしに、某店の彼が「本日全品8%引き」の看板を担いで現れます。

学生なのでしょうか。

フリーターなのでしょうか。

アルバイトなのでしょうか。

正社員なのでしょうか。

一見だけだとよく分からない謎めいた魅力あるエプロン姿の彼が現れます。

そう私と彼、その距離

≒6メートル

=6

メー-----
トル

なのです。

夜な夜な人気のなくなった歩道、そこに彼がいると仮定して距離を歩測した水面下の努力の結果

≒6メートル

=6

メー-----

トル

なのです。

東にはホームレスの私、西にはホームレスレスの彼です。

(東側の私を基準だとややこしいので、以下西側の彼を基準にします。)

日常と非日常が、歩道の出入り口6メートルの両端にあるのです。

横断歩道をこちらに向かってくる方々にはどう映っているのでしょうか。

月とすっぽんでしょうか、月とすっぽんぽんでしょうか。

意外と50歩100歩なののでしょうか、いやきつと10000飛んで50歩100歩くらいでしょう。

基本的に彼が登場すると彼にステージを譲ります。

あの「まーーーす！」を聞かされるとお手上げです。

一日中、雑誌を持って手を上げている私だけにお手上げです。

あの「まーーーす！」を聞かされると脱帽です。

一日中、赤い帽子を被っている私ですが脱帽です。

だって「まーーーす！」と言うより「むあああ〜〜〜すう！」なのですから。

彼にステージを譲っている間、私は

「ビッグイシューでございます！」

を上の方で連呼しながら6メートル先の彼の日常を勝手に考えはじめます。

朝ふと布団から目が覚めて

「やべっ！もう9時じゃねーか！遅刻じゃねーかよ！」

と思ったら今日は休日でした、

なんていう6メートル先の日常の幸せ噛み締めているのでしょうか。

休日だからと余裕の2度寝で何気に時計を見ると

「やべっ！もう12時じゃねーか！」

と半日無駄にしてみました、

なんていう6メートル先の日常の幸せ噛み締めているのでしょうか。

取りあえずコンビニに弁当を買いに出掛けようと準備をしていると

「自転車の鍵が無いんですけどー鍵が消えたんですけどー！」

と散々部屋を荒らしまわって探した挙句、実は自転車に付けっぱなしでした、

なんていう6メートル先の日常の幸せ噛み締めているのでしょうか。

弁当も食べたので、散々荒らした部屋を一発逆転、残り半日の休日を有効活用

するために

「ついでに部屋の大掃除でもすっかー取りあえず本棚の漫画から・・・。」

と手を出したら最後、

「諦めたらそこで試合終了ですよか・・・いいこと言うね！この漫画！俺のバイブルだ！

さて諦めずに俺も掃除をつてもう18時じゃねーかよ！ついつい全巻読破してしまったじゃねーかよ！」

とさらに半日、合計1日無駄にしてみました、

なんていう6メートル先の日常の幸せ噛みしめているのでしょうか。

また取りあえずコンビニに弁当を買いに出掛けたのは良いものの、途中で

「あれ？俺玄関の鍵閉めてなくね？記憶に無いんですけどー！」

と振り出しに戻って確認したらしっかり閉めていました、

なんていう6メートル先の日常の幸せ噛み締めているのでしょうか。

散々荒らした部屋で弁当を食べながら見るアワビさんだかホタテさんだかのアニメが

エンディングテーマに差し掛かると

「また明日から仕事だよー行きたくねーなー。」

と憂鬱に浸る俺は悲劇のヒロイン（男）です、

なんていう6メートル先の日常の幸せ噛み締めているのでしょうか。

アニメが終わった後、次の番組まで時間を持て余してしまって

チャンネルを8chから6chに変えた時に

「うはっ！8chと6chで同じCMやってるじゃねーかー！」

と人生で2度、3度のしか起きない奇跡です、

なんていう6メートル先の日常の幸せ噛みしめているのでしょうか。

あのですね、この後彼が

「次の番組を見る6メートル先の日常のから翌朝起きるまでの6メートル先の日常」

をダラダラ書くと規定の4000字超えそうなのでいきなりぶっ飛びます。

と言うか、寝たいのです、眠いのです。

夜な夜なネットカフェのパソコンに向かってこの文章を打っているのです。

今から寝てもナポレオンが眠る時間の半分くらいの時間しかないのです。
5時間パック950円、それに100円引きのサービス券を使って850円、
それが5万円になると思うと・・・雑誌を販売して得た100円玉と50円玉、
100円玉の角が丸くなるほど触った私、50円玉に穴が開くほど見つめた私、こ
こ最近1万円札を
挿んだことのない私、何だか胸に熱いものがこみ上げてきます。
では話し戻りましてシーンは明け方です。

明け方に怖い夢－6メートル先のビッグイシューを売っている人に自分になって
いる
それはそれは怖い夢－でふと目を覚ますと
「ほっ・・・夢か・・・つーか今何時だよ、げっ！4時44分じゃねーかよー！」

となさそうでどなたも1度は経験がありそうなベタベタのホラーです、
なんていう6メートル先の日常の幸せを嘯みしめているのでしょうか。

そして翌朝、布団から目が覚めて、二度寝をせずに、朝ごはんをしっかり食べ
て、
仕事に行く支度をして、自転車の鍵を持って、火の元の確認をして、玄関の鍵
を閉めて
「施錠ヨシッ！」
と指差呼称をして
ふと玄関先で、雲ひとつない秋晴れの澄んだ青空を見上げて
「あー休みてー仕事に行きたくねーつーか今日も歩道にあのおじさんいんのか
なー
ビッグイシューがあーだのこーだのうるせーよなーあのおじさんつーかあのお
じさん
この前6メートルだの5万だの焼肉だのブツブツ呟いてたけどやばくね？人間ツ
イッターじゃね？
つーかあーならねーよーに行きたくねーけど仕事頑張らねーとなー。」
としみじみと思い浸ったのが運の尽き、遅刻寸前、最寄り駅で駆け込み乗車を
しました、
なんていう6メートル先の日常の幸せを嘯みしめているのでしょうか。

一通り6メートル先の彼の日常を勝手に考え終わったころには、彼は仕舞い支
度をしています。

そして看板を担いで某店に帰る彼の後姿、
6メートルが7メートルに、7メートルが8メートルに、8メートルが9メートルに、

6メートル先の彼の日常がどんどん遠のくような感じがして・・・。

そして交差点を右に折れて消えて行く彼の後姿、

私にとってのある6メートル、

6

メ-----

トルが

6

メ-----

-----トルくらいに

思えてきて、6メートル先の彼の日常を獲得することが如何に大変なの

か・・・。

そんな夕暮れ時、横断歩道から人差し指で「1」をつくって、こちらに向かって
くるあなた、

神様、仏様、横断歩道から人差し指で「1」をつくって向かってくるあなた様が、

その6メートル、

6

メ-----

トルを

6メ-----ト

ルくらいに

してくれます。

それでは問題です。以上ここまでで「6メートル」を何回使ったでしょうか？

レッツ！！シンキングターーーイム！！！！

講評（星野）

なかなか考えましたね。このユーモア。面白かったです。
6メートル隣で立っている宣伝マンとの対比。彼の日常についての想像がやけに細くてリアルで笑いました。こんなにそばで仕事していて、その分にはそう大きな違いはないのに、心理的には遠く遠く離れて感じられるという落差に、しみりとしめました。それを表すには6メートル、絶妙な距離ですね。さて、問いの答えですが、問いの「6メートル」まで含めて40回？